

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1階)

事業所番号	2792600070		
法人名	株式会社 エフ・エム・シー介護サービス		
事業所名	FMCグループホーム一番町		
所在地	大阪府門真市一番町6番7号		
自己評価作成日	令和2年1月30日	評価結果市町村受理日	令和2年7月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和2年6月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「すべての認知症高齢者に対し尊敬の意を持ち、受け入れること」が介護支援の根本と考えており、介護スタッフにおいては「生き生きと元気に楽しい共同生活」及び「さりげなく優しく、さりげなく見守る」といった、認知症高齢者主体の介護を行うべく日々努力を重ねております。事業にあたっては、「笑顔で心穏やかに。時には思いを打ち明け 一緒に涙できる環境作り」を目指し、地域住民との関係性の向上、並びに地域内連携を綿密に図りながら行政との連携に努め、地域の一員として高齢者の方々の力に成るべく努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

㈱エフ・エム・シー介護サービス(法人)は、寝屋川市中心に多くの高齢者介護施設を展開し、FMCグループホーム一番町は法人が運営するグループホームの一つで、開設後8年を迎えた。国道から一步入った静かな住宅街で近隣には桜の見事な公園があり、地域住民の絶好の休息場所となっている。ホームは約2年前に赴任した館長(管理者)のもと、日常業務を出来るだけ効率化し、空いた時間の多くを利用者の見守り等に目を向け、利用者を大切に作る姿勢と努力を感じられる。実際、ホームでは「さりげなく優しく見守る」介護の実践や利用者に向かい真摯に傾聴している職員の姿や、穏やかな顔で過ごしている多くの利用者が見られた。入院後亡くなられた身寄りのない入居者の役所等の諸手続きに、管理者が奔走したことや、多くの利用者がお見舞いやお別れに参列したというエピソードも残っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型の介護施設であることを織り込んだ「FMCの心得・理念」を作成し、管理者を始め介護職員に周知徹底を図り実践しています。	法人運営のグループホーム(4ヶ所)に共有の経営理念・運営方針と介護理念・介護方針が玄関に大きく掲示されている。新人職員受入れの際に、これら理念を唱和する事で全職員に周知徹底している。職員とのヒアリングでは、介護で困難に直面した際に職員が理念等を意識して行動している事が確認できた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	入居者が地元地域の催し物に参加したり、ホームで催し物する場合には地域の方々に案内状を出して参加して頂くようにしています。	地元民生委員の声掛けで、小学校の祭りや餅つきに利用者の数名が参加している。敬老の日には約40名もの保育園児が来所し、各ユニットに分かれ利用者との交流が行われている。また、毎月の傾聴ボランティアの訪問や地域包括支援センター主催の講習等をホームで行っているが、近隣住人への告知にも拘らず、残念ながら集まりが今ひとつである。	地元自治会に未加入の為か、自治会との関係が希薄である。運営推進会議、講習会の開催や地域防災等には自治会との関係を密にし、お互いに不可欠な存在に成れるような工夫が望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事や運営推進会議の際に、施設の現状や、入居者様の認知症についての話をし、理解して頂けるように努めています。また、地域包括主催の介護予防教室の際に場所を提供するなど、地域と密に暮らしていけるホームを目指しています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的実施し、入居者様や家族様、地域の方々からの意見を参考に、より良いケアを実践し、積極的に取り組んでいます。	会議は2ヶ月毎に開催し、地域包括支援センター職員と地元民生委員のほか、利用者(複数、時には家族も参加)、ホーム管理者と職員(複数)が参加している。外部参加者からは地域の情報や警察官を装った詐欺の話、地域包括支援センター提案によるホームでの各種講習会等の開催にも言及している。議事録はくすのき広域連合のほか家族に郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設として、緊急措置や生活保護の入居者の方も居られ、市町村担当者とは密に連絡を取り合い協力関係を築くように取り組んでいます。	緊急措置の受入れ(3人)、生活保護(約半数)や成年後見制度の利用者もおり、門真市及びくすのき広域連合の担当部署との報告、連絡、相談等と緊密なつながりと協力関係維持に取り組んでいる。また、地域包括支援センターとは、運営推進会議への参加及び介護予防、歌体操、オレンジサポーター等各種講習会の場所提供等で双方交流がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームが車通りの多い立地にある等の理由から、利用者様の安全を考慮し、玄関の扉等を施錠しています。身体拘束の勉強会を行い、拘束を行わないケアに取り組んでいます。	ホームでは危険防止のためやむを得ず一時的にベッドに4点柵を設置しているケースが1件あり、家族に説明のうえ同意を得ている。身体拘束・虐待に関わる勉強会を法人作成の資料を使い、年2回反復実施することで適正なケアに努めている。玄関は安全確保のため施錠しているが、1・2階のユニット間や裏庭への往来は自由で閉塞感を感じられない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を行い、フロア会議の際などにも確認し、話し合いをしています。またスタッフ間でも、言葉使いや介助に対して、注意し合い、防止する様に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を利用されている入居者様もいっしょに、詳しく学ぶ為に勉強会等を行い、皆で理解出来る様に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・入居契約書・看取り指針等を理解・納得して頂けるまで、わかりやすく説明を行う様に努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を入口に設置しています。運営推進会議を開催時には、利用者様・家族様にも参加して頂き、出された意見や要望を反映できるよう努めています。	家族の訪問時に管理者や職員が対応し意見・要望を聴取している。調査機関が行ったアンケートにも面会時に管理者がおれば必ず丁寧に対応してくれるとの回答が多くあった。運営推進会議への利用者の参加、夏祭り、クリスマス会への家族の参加で意見・要望等聞いている。毎月お便り等が郵送され、面会の少ない家族にも、都度電話連絡を取っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から、業務に関する意見や提案等を、スタッフ全員が話しやすい環境になる様に心掛けており、毎月、会議の際にも意見を聞く機会を設け、反映出来る様に取り組んでいます。	ユニット会議、全体会議、勉強会が毎月あり職員の意見・提案を聞くことが出来る。また、管理者は常時職員と接しており、職員へのヒアリングでも何時でも管理者と自由に話が出来る環境とのことである。職員からは、介護計画書作成時にユニット担当者各2名の参加を提案したり、利用者の希望で朝食にごはんを選択できるように提案し採用された実績がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員、年に一度「自己評価表」を使用し、それを元に、管理者との面談をする機会を設け、他者評価、個々の新しい目標と一緒に建てるなど、やりがい・スキルアップにつながる様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	未経験のスタッフも採用し、個々に合わせた指導を行いながら、出来るまで丁寧に行なう様にしています。また、毎月勉強会を実施したり、可能な限り外部研修に参加したりと、スキル向上にも取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	可能な限り、外部研修等に参加する機会を設け、同業者の方々との交流を行う事で、サービスの質の向上に努めています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の困っている事や、不安な事、要望等に耳を傾け、安心して過ごして頂ける様に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の困っている事や、不安な事、要望等に耳を傾け、また話しやすい環境を大切に、入居者様を安心して頂ける様な関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様とご家族様が必要としている支援を見極め、可能な範囲で対応を行っています。 また、訪問マッサージ等具体的な方法を提案できる様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の認知度や身体状態を考慮し、その方に合った手伝い(洗濯物をたたむ、食器拭き、テーブル拭き)等をして頂き、共に生活している事を実感して頂ける様に取り組んでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の面会時には、状況の報告や説明を行い、また入居者様とご家族の絆も大切にし、共に入居者様を支えて頂ける様に取り組んでいます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様が大切にしてきた馴染みの人や場所に関して、可能な範囲で関係を維持し、途切れないよう様に努めています。	家族が利用者の友人と同行しそのまま外食等に出掛ける事がある。また、家族がヘアカットに連れ出す事もある。祭り好きの利用者もあり、職員が夏祭りや盆踊りに同行するなど利用者の希望に沿った支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様が孤立しない様に、スタッフが間に入り、関係を取り持ち、入居者様同士が関わりを持って、支えられるような支援になる様に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された方にも、お会いした時に、挨拶や話をするなどし、相談があった際は、しっかりと支援を行う様に努めています。 また、長期入院にて退去になった入居者様に対し、療養型の病院から有料老人ホームへと転居するお手伝いをさせていただきました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居以前の生活習慣の把握に努め、可能な範囲で、その方の希望を受け入れる様にしています。どうしても困難な場合は、ご本人に説明し、代替え案を提案し納得して頂ける様に、検討し実施するようにしています。	入居に当たっては、自宅等で面談し、本人、家族や介護関係者から本人の暮らし方の希望、家族の意向や生活歴等の把握に努めている。入居後は職員が寄り添いより深く利用者の思いや意向を汲み取る努力をし、それを記録し職員間で共有している。料金面等でホームへの受入れが困難な場合もあり、代替え案を提示したこともあったという。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族様から、情報収集をし、その方の、これまでの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、サービス利用の経過等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の心身の状態に応じ、日課やレクリエーションをして頂いたり、体調を考慮し、その人らしい1日を過ごして頂く様にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、フロアー会議にてケアカンファレンスを行い、より良く暮らすための課題やケアのあり方に関して話し合い、ご本人・ご家族の意見を反映し、現状に即した介護計画の見直しに活かせる様にしています。 また、ミニミーティングを行い、急を要する事案などに対応できるように努めています。	毎月のフロアー会議で利用者全員のケアカンファレンスを行い、管理者、職員が利用者の状況やケア方法につき話し合いを行っている。これには医療関係者や家族の意見も反映させ、必要に応じ利用者の介護計画の見直しを行っている。また、利用者の状況が急変した場合等には、随時介護計画の見直しを行い、家族の同意を取り付ける場合もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録書式を一部変更し、単一的な記録だけでなく、入居者様のおっしゃった言葉なども記録に残し、職員間で情報を共有しながら、会議時やその都度話し合いを行い、より良いケアを実践し介護計画の見直しに活かせる様に、取り組んでいます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	歯科往診、眼科往診、訪問カット、訪問整骨院を利用するなど、本人様やご家族様の希望に合わせて対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのコンビニやスーパーに買い物に行ったり近隣の公園等に散歩に行く機会を作り、楽しんで生活して頂けるように努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携の病院から、月2回の往診があり、歯科往診は毎週火曜日にあります。本人様やご家族様の希望を尊重し、適切な医療を提供出来る様に努め、特変時はすぐにDrに連絡し対応をして頂いています。	入居時に家族を交え十分に説明しており、利用者のほとんどがホームの協力医療機関を選んでいる。従来のかかりつけ医を継続している利用者も1名おり、通院には職員が付き添い支援している。また、精神科の往診を2名が受けている。歯科往診時には口腔ケアの指導もある。アンケートでは、家族も医療面での不安は特に感じていないことが分かった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、提携している訪問看護師が来ている。入居者様の一週間の様子を伝え、相談・報告している。 また、経験の浅いスタッフの医療面での不安なども相談できる関係性を築いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際には、安心して治療が出来る様に、しっかりと情報提供を行い、退院時には、サマリーや看護情報を頂く様にしています。 また、可能な限り管理者・スタッフがお見舞いにいき、ご本人の状態を正確に把握できるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについて説明を行い、必要な段階になった際、気持ちの変化があった際に、意向を踏まえ、ご家族様・主治医・看護師・職員で話し合いを行い、全体で方針を共有し、支援する様に努めています。	過去5年間に4名の看取りがあった。終末期の点滴などには訪問看護と利用者間で個別契約している。賑やかな場所が好きだった利用者には、家族の希望でぎりぎりまで共用部分で過ごしたり、居室のドアを開放し生活音が聞こえるよう配慮したり、身寄りのない利用者にも全職員が肉親以上の心のこもった細やかな支援を行なってお見送りした事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備え、定期的に勉強会を行い会議の際に初期対応の確認を行う様にしています。また、看護師に指導頂いたり、マニュアルを確認する様に、指導・実践しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を定期的実施しており、全職員が避難誘導について、認識できる様、マニュアルをしっかりと頭に入れておき、実践出来る様に努めています。	訓練は消防署立ち会いのもと行っている。消防訓練マニュアルは良く整備された内容で、通報機器も設置されている。備蓄品は飲料水・食料などを担当者がリストをチェックしている。避難場所は近隣の小学校が指定されている。	近隣住民の協力は未だ得られていないが、引き続き働きかけを行う予定であり、その実現が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心得・理念でも、「尊敬の意を持ち続ける」ことを掲げており、1人1人の人格を尊重し、丁寧な言葉かけを心掛けるように努めています。	玄関に掲示された介護十訓の実践として、職員は日頃から言葉遣いや態度・介護の際に発する音にまでも注意を払っている。研修についても今後はグループワークも取り入れ、レベルアップを図り更に習熟度を深めたいとしている。個人情報管理については、ファイルを鍵付きロッカーで、ノートパソコンはパスワードでロックし保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションの参加や入浴、散歩等、様々な部分で、本人様の体調や意思・希望を尊重して支援を行っています。また、自身にて表現出来ない入居者様へは、本人の思いを汲んだ内容を、ケアプランに盛り込んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で左右せず、1人1人の体調や心身の状態に合わせ、1人1人のペースに沿った対応が出来る様に心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に、訪問カットを利用したり、ホームにて白髪染めを行うなど、身だしなみを整えて頂いています。外出時には、ご本人様の意向も聞き洋服を決めて頂く等しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の調理は調理員がいる為行っていませんが、盛り付け、食事のあと片付けは手伝って頂いており、日曜日や行事の際には、利用者と一緒に手作りおやつ等をして楽しんで頂いています。	業者が献立と新鮮な食材を届けている。調理人が調理を行うため、職員は利用者の食事介助に集中できる。検食は管理者が行い、職員は利用者と共に同じ食事を取っている。利用者は食事の準備や後片付けに参加している。おやつ作りには、スマホアプリを参考に利用者が選び、材料の買い出しに行ったり、誕生日には希望により外食を楽しむこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は記録に残し対応しています。1人1人の状態に合わせ、ミキサー食・刻み食・粥・おにぎりにする等して対応しています。 また、必要に応じて補助食品なども使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日常的には職員で口腔ケアをしています が、週に1回は歯科医と歯科衛生士が来られ専門的な口腔ケアをされています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方には、定期的にトイレ誘導を実施し、個々にあったパターンや習慣を把握し、それぞれにあった間隔や、その日の状態を考慮し、声掛けや誘導を実施しています。	現在、日中は布パン使用は2名、オムツ使用は3名である。夜間は2時間毎に夜勤の職員が巡回し声かけてトイレに誘導したり、パット交換を行うのが基本だが、あくまで利用者の睡眠を重視し個別に対応している。自立できているものの夜間は転倒の恐れがある利用者には、居室にポータブルトイレを置いている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や影響を理解し、便秘傾向の方には、ヨーグルトや食物繊維の多い野菜を摂って頂いたり、水分を勧めたりと個々に応じた予防と対応に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴を実施しており、体調に合わせて調整し、シャワー浴・清拭・足浴を実施しています。また、ゆっくりと気持ちよく入浴して頂ける様に個々に添った支援に取り組んでいます。	入浴剤を選んでもらったり、季節の菖蒲湯の日を設けたりと入浴を楽しんでもらうよう工夫している。着替えは本人の希望する衣類を相談しながら用意している。入浴を嫌がる利用者も少なくないが、色々な方法で誘導するものの無理強いはせず清拭などに代えるなど、清潔さを保ちながらもストレスにならない方法で支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時は、1人1人の習慣に応じて、無理に寝て頂くのではなく、眠くなるまでフロアで過ごして頂いたりしています。また体調の観察をしっかりと行い、体調不良時は、早めに臥床して頂く等の対応を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の重要性・服薬ミスの怖さを認識した上で支援にあたっており服薬時には日にち・名前を読み上げた上で服用して頂き記録表にサインする様にしています。内服薬等の内容等については、医師・薬剤師・看護師より説明を受けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	曲を流し、一緒に歌ったり天気の良い日には散歩に出かけたり、外でおやつを召し上がって頂いたりして気分転換して頂き楽しみや張り合いを持った日々を過ごせる様支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1月には、神社に初詣に、春には花見、外食等様々な企画をしています。近くのコンビニやスーパーに買い物に行く等の支援を行っています。 雨天時以外は、ほぼ毎日のように散歩など外出する機会を設けています。	おやつを買いに週1回交代で、車で出かけている。外出が困難な利用者は玄関前のテーブルでおやつタイムを楽しんだり、他の利用者は裏庭に利用者が協力して作った菜園で土いじりや野菜作りを楽しんでいる。裏庭へのドアやエレベーターには鍵をかけず、二階からも出入りが可能なため自由に外気浴を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	散歩途中でおやつや、缶ジュースを購入したり、コンビニに行った際はレジでの支払いをご自身でして頂いたりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、電話して頂く様になっています。また、知人へのお手紙を書かれたりする方もおられ、投函する等の支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには、利用者様の作品や写真を飾るなどしています。月毎にカレンダーを作ったり色々な装飾をし、四季折々の季節感を味わって頂ける様対応しています。	裏庭の荒地を菜園にし、利用者が競って水やりなどの手入れを行い、きゅうり、ブルベリーや季節の花などが育つ小さな菜園となり、側のベンチで休息もできるなど有意義に活用されている。居間には家具店で共に選んだりクライニングシートやソファが置かれ、テーブルでは毎タランプを楽しんだり、それぞれがお気に入りの居場所できつろいで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにテレビを置きソファに座って観て頂き、リラックスして過ごせる様な空間づくりに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用されていた家具を持参して頂いたり、使い慣れた物を居室に置き自分の部屋である事を認識して頂ける様な工夫に努めています。	居室にはベッド・エアコン・クローゼット・カーテンが設置され、写真・遺影・小物の飾り・タンス・仏壇・ドレッサー・加湿器や銭太鼓のお弟子さんらとの写真を持込むなど、それぞれ自分らしく居心地の良い部屋作りとなっている。家庭の事情で持ち込めなかった利用者には職員が自宅に出向き、写真などを選んで居室に飾ってあげるなど心温まる支援も観られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには大きな文字で表示をし、各個人様の居室にも、表札や名札を貼るなどの工夫をしています。		